

キリストの光のキリスト

幸せに
なるために

四旬節第1主日

2月10日

(マタイ4:1-11)

昨年九月に日本が打ち上げた月
周回衛星「かぐや」が美しい地
球の映像を茶の間に送ってくれ
た。その記憶はまだ新しい。現
在、人が知る限り、地球のよう
美しく蒼い星はこの世界にほかに
は存在しない。今の地球になるま
では四十五億年もの時が経って
いるといわれる。人類の歴史は地
球の歴史にくらべればほんの一
点にすぎない。神は人を生かすた
めにこのすばらしい地球を整
え、準備してくださった。

四旬節第一主日に読まれる福音
は、イエスが悪魔から誘惑を受ける
話。

「…更に、悪魔はイエスを非常
に高い山に連れて行き、世のすべて
の国々とその繁栄ぶりを見せて、
『もし、ひれ伏してわたしを拜むな
ら、これをみんな与えよう』と言っ
た」。この誘惑にイエスは申命記の

言葉で答える。「あなたの神である
主を拜み、ただ主に仕えよ」と。

地球はだれのものでもない。そ
れなのに、人がそれを支配しよう
としている。巨大としかいいよう
のないこの宇宙にある小さな一
点にしかすぎない地球。そこに生
きる人。短い命。その吹けば飛



ぶような存在にしかすぎないもの
が、恐れ多くもこの地球を支配し
ようとしている。その行き先は
死。個人の死ではなく、人類の死。
地球の死。宇宙の死。

神はその愛のゆえに、人を創造さ
れた。ご自分に似せて創造された。

「その鼻に命の息を吹き入れられ、人はこうして生きる者となった」

人は創られた。愛する喜びを知るために。愛される幸せを知るために。生きる喜びを味わうために。神が自ら形づくった人を置かれたエデンとは、地球ではないだろうか。

人は今まで、そして今も禁断の木の実を食べようとしている。命の木と善悪の知識の木。その実を食べようとしている。いや、食べている。創造主にだけ保留されている「命と善悪の知識」。それさえも人は手に入れようとしている。その果実を食べると死ぬといわれているのに…。

命も善悪の知識もまた神から与えられたもの。人はそれを基に生かされて生きている。人は神の創造の業に参加する。神からいただいた命と善悪の知識を使い、この世界を神が望まれる世界に変えていく。今も続いている神の創造

の業に協力していく。それが神の望みであり、人が生きる目的であり、使命である。

人は誤っている。創られた存在なのに、そのことを忘れていた。与えられた命なのに、与えられた知識なのに、それを自分が創ったと思い込んでいる。すべての国々をもらっても、その繁栄を享受しても、みんなもらっても、それが何になるのだろう。

人は風が吹けば飛び去るもみ殻のような存在なのに…。

わたしには、わたしを創った神がいる。その神を主として拝み、ただ仕えること：それが真の幸せだといエスは教える。

今週の福音

11日・月	マタイ	25・31	—	46
12日・火	マタイ	6・7	—	15
13日・水	ルカ	11・29	—	32
14日・木	マタイ	7・7	—	12
15日・金	マタイ	5・20	—	26
16日・土	マタイ	5・43	—	48